

めぐみイエス・キリスト教会

2018年12月23日(日)クリスマス礼拝
週報「通算第437号」



2018年標題聖句

使徒の働き27章22節～26節

《「しかし、今、お勧めします。元気を出しなさい。あなたがたのうち、命を失う者はひとりもありません。失われるのは船だけです。昨夜、私の主で、私の仕えている神の御使いが、私の前に立って、こう言いました。『恐れてはいけません。パウロ。あなたは必ずカイザルの前に立ちます。そして、神はあなたと同船している人々をみな、あなたにお与えになったのです。』

ですから、皆さん。元気を出しなさい。すべて私に告げられたとおりになると、私は神によって信じています。私たちは必ず、どこかの島に打ち上げられます。』》

第一礼拝	毎週日曜日	午前10時～11時
第二礼拝	毎週日曜日	午後6時～6時45分
聖書研究・祈祷会	毎週水曜日	午後6時15分～7時15分

牧師 鈴木 竜 実
ますみ

※当教会は、モルモン教、エホバの証人(ものみの塔)、統一教会(原理福音)とは、一切関わりがありません。

◇◆◇2018年12月23日(クリスマス礼拝)

第一礼拝 午前10時～11時 第二礼拝 午後6時～7時

司会(奏楽) 鈴木竜実牧師 奏楽 佐野みゆきさん

◎礼拝プログラム

【前奏祈祷】

【賛美Ⅰ】 新聖歌75 「神の御子は」 p. 102

【交読文】 No.24 詩篇第67篇 p. 898

【賛美Ⅱ】 新聖歌82 「牧人羊を」 p. 112

【使徒信条・主の祈り】

【先週説教】

【賛美Ⅲ】 オリジナルNo.1 「ビジョン」

【聖書朗読】 ルカの福音書2章1節～21節(新約p. 99下段)

【祈 禱】

【説 教】 《Christmas・Message(飼葉おけ)》 鈴木竜実 牧師

【聖 餐 式】

【賛美Ⅳ】 新聖歌77 「きよしこの夜」 p105

【平和祈り】

【頌 栄】 新聖歌63 「父・御子・御霊の」 p. 85

【祝禱後奏】

※本日の聖書箇所【ルカの福音書2章1節～21節】

2:1 その頃、全世界の住民登録をせよという勅令が皇帝アウグストから出た。
2:2 これはクレニオがシリアの総督であった時の最初の住民登録であった。
2:3 それで、人々は皆、登録の為に、それぞれ自分の町に向かって行った。
2:4 ヨセフもガリラヤの町ナザレから、ユダヤのベツレヘムというダビデの町へ上って行った。彼は、ダビデの家系であり血筋でもあったので、
2:5 身重になっているいいなずけの妻マリヤも一緒に登録する為であった。
2:6 ところが、彼らがそこにいる間に、マリヤは月が満ちて、
2:7 男子の初子を産んだ。それで、布にくるんで、飼葉おけに寝かせた。宿屋には彼らのいる場所がなかったからである。

2:8 さて、この土地に、羊飼いたちが、野宿で夜番をしながら羊の群れを見守っていた。

2:9 すると、主の使いが彼らの所に来て、主の栄光が回りを照らしたので、彼らはひどく恐れた。

2:10 御使いは彼らに言った。「恐れることはありません。今、私はこの民全体の為の素晴らしい喜びを知らせに来たのです。

2:11 きょうダビデの町で、あなたがたの為に、救い主がお生まれになりました。この方こそ主キリストです。

2:12 あなたがたは、布にくるまって飼葉おけに寝ておられるみどりごを見つけます。これが、あなたがたの為のしるしです。」

2:13 すると、たちまち、その御使いと一緒に、多くの天の軍勢が現われて、神を賛美して言った。

2:14 「いと高き所に、栄光が、神にあるように。地の上に、平和が、御心にかなう人々にあるように。」

2:15 御使いたちが彼らを離れて天に帰った時、羊飼いたちは互いに話し合った。「さあ、ベツレヘムに行って、主が私たちに知らせて下さったこの出来事を見て来よう。」

2:16 そして急いで行って、マリヤとヨセフと、飼葉おけに寝ておられるみどりごとを捜し当てた。

2:17 それを見た時、羊飼いたちは、この幼子について告げられたことを知らせた。

2:18 それを聞いた人たちは皆、羊飼いの話したことに驚いた。

2:19 しかしマリヤは、これらのことを全て心に納めて、思いを巡らしていた。

2:20 羊飼いたちは、見聞きしたことが、全部御使いの話のとおりだったので、神をあがめ、賛美しながら帰って行った。

2:21 八日が満ちて幼子に割礼を施す日となり、幼子はイエスという名で呼ばれることになった。胎内に宿る前に御使いがつけた名である。

●ポイント1 「飼葉おけ」とは？

※イザヤ書1章2節～3節「イザヤへの最初の言葉」 (旧約p.1033上段右側)

●ポイント2 「御使いがつけた名」とは？

※ルカの福音書1章26節～33節「御使いガブリエル」 (新約p.97上段左側)

◎先週のメッセージの概要【永遠の命を与える為】

《今日は永遠の命について、ヨハネの福音書から考えて見ることにしましょう。

主は何度も弟子たちに、そしてユダヤ人たちに、ご自身がこの世界に来られた真の目的は、「永遠の命」を与えることであることを教えられました。この永遠の命を与える為には、「十字架の死と復活」を通らなければならないことは必然でした。そして、この時には、その十字架の直前であったわけです。

主は、このように言われました。「あなたからいただいたすべての者に」と。

この言葉の解釈には二通りあります。一つは「主を信じる者」を指し、もう一つはアダムとエバから生まれ出た、文字通りすべての人を指し示します。

そして「永遠の命を与える為、あなたは、すべての人を支配する権威を子にお与えになった。」と言う文脈から、この世界に存在した、また未来に存在するすべての人を指し示すと考えるのが妥当であると言えるでしょう。

なぜなら、この世界も、すべての生き物も主イエス様が創造されたのです。『万物は御子にあって造られたのです。天にあるもの、地にあるもの、見えるもの、見えないもの、王座も主権も支配も権威も。万物は御子の為に造られ、御子は、万物よりも先に存在し、万物は御子にあって成り立っています。』

よってイエス様は、最初の人アダムに取って主であり、アブラハムの主であり、ダビデの子孫でありながらダビデの主であり、母マリヤは実の母であっても、彼女の主であることになるのです。まさしくすべての人の主なのです。

主を信じる者が、実際に永遠の命をいただく時は、主の再臨された時です。よってまだ未来のことなのです。使徒ヨハネはこのように教えています。

『神の御子を持つ者は命を持っており、神の御子を持たない者は命を持っていません。私があなたがたに対してこれらのことを書いたのは、あなたがたが永遠の命を持っていることを、あなたがたに良く分からせる為です。』と。

永遠の命は、主イエス・キリストご自身にあるのです。主ご自身が信じる者の内に、聖霊として住んで下さるのです。そして日々、主の霊である聖霊が信じる者の霊を通して、人格と人格との深い交わりをして下さるのです。》

◎お知らせ

※次回の礼拝は、1月6日(日)です。12月30日(日)は、礼拝はありません。また明日24日(月)クリスマス・ミニ・コンサート集会を午後1時から行ないます。次回祈禱会は12月26日(水)午後6時15分から。新年は1月9日(水)からです。